

◆【海員随想】BISKRA号航海記(24)④ 新木繁雄

8月29日 アルジェ接岸中

まだ3番ハッチの揚げ荷が終わっていない。この分ではアルジェ出港はいつになるか見当もつかない。

午後になって1番ハッチの揚げ荷が始まったので見に行った。船内に長くあった鶏卵は腐っているので、すべて廃棄すると言う。鶏卵の下の荷物を揚げるのに、邪魔になるので、デッキに積み上げてある。フランスのセットで積み込んでから、もう20日になる。日中40℃以上になるハッチに20日も置いたのでは腐るのが当然だろう。ものすごいにおいがしている。ポートダビットの修理完了。アルジェリアの溶接はあまり上手ではない。

8月30日 アルジェ接岸中

アルジェリアでは木曜日が半日で金曜日が休日だ。今日の作業は午前中で終わり、午後は休みである。

デッキに揚げてある鶏卵を、荷役人夫の何人かは大きな袋で持ち帰っていく。念のため1つ割ってみたら、黄身も割れずにきれいだった。商品にはならないが、食べるつもりなら食べられるだろう。

エンジニアがすべてユーゴスラビア人になったので、機関室見回りは彼らに任せることにした。もともと私の仕事ではないが、アルジェリアの乗組員があまりにも頼りないのでやっていただけだ。

市場で魚を買い、エルビアへ持っていった。刺身を作り夕食。

ミッドナイト頃帰ってきたら、1番ハッチからデッキに揚げた鶏卵はそのままになっているが、鶏卵の下の揚げ荷は終わっていた。

9月3日 アルジェ接岸中

船長と機関長に、今までに出た不良個所のギャランティ・レポートに関し、終了したものにサインをもらった。

デッキ関係に不良個所が出てきた。船長とC/Oが交代して、違った角度から見るので、今まで気がつかなかった不良個所が見つかったようだ。マストハウス左舷側の甲板との溶接部分に亀裂が入っている。これは次の日本で溶接の専門家にやってもらおう。

No.2ハッチ・ツインデッキカバー開閉用リモートコントロール油圧管継ぎ手溶接部分に油漏れあり。ガス溶接で応急処理した。その他、甲板機器のあちこちに漏油個所がある。機関長に増し締めするように指示した。

市場でクルマエビ3キロ、大羽イワシ3キロ、ナス、キャベツ、パプリカ、タマネギなどを買い、夕食に船長以下全職員を招いて、ポートデッキでバーベキュー・パーティーを開いた。全部で10人。すごく盛大なパーティーになった。日本から持ってきたサントリーのダルマビンを3本出した。ユーゴスラブの連中は体が大きいに、よく飲む。夕方7時から始めて10時頃まで騒いでいた。

今度のC/Oもユーゴスラブ人だ。本国では、給料はせいぜい800ドルだが、アルジェリア船では1800ドルもらえる。(当時のレートは1ドル200円だった)こんな良い働き口はユーゴスラビアにはない。できるだけ長く乗っていたいと言っていた。

「海員だより」